

ごへんち

～すべては子どもの笑顔のために～

二戸市立御返地小学校

第10号

令和5年7月25日



夏休み「家でしかできない体験を」

1学期が終わり、いよいよ明日から23日間の夏休みに入ります。

本日、1学期の終業式を行いました。子どもたちは、立派な態度で式に臨んでいました。また、児童代表のことは「1学期の反省と夏休みの抱負」では、4人の皆さんが代表として発表しました。

夏休みは、当たり前前のことを当たり前前に実践できる23日間にしてほしいです。朝早く起きる、しっかりご飯を食べる、歯みがきをする、自分で決めた仕事（手伝い）をしっかりとる、午前中に集中して勉強する、元気よく体を動かす、早寝を心がけるなどなど、毎日のあたりまえのことです。その1日1日の積み重ねこそが「充実した夏休み」につながり、自分自身を大きく成長させる糧となります。

長い休みは、家族や地域の方々の方が先生です。家でしかできない経験やチャレンジをたくさんしてほしいです。そして、8月18日に25人みんなそろって、元気に登校してくる子どもたちに会えることを楽しみにしています。

服を着て泳いでみたら・・・

21日（金）、服を着て水に入ったらどのぐらい泳ぎにくいのか、もし水に入ってしまったらどのような感じかなど体験しました。水の中に落ちたら、ペットボトルを使って命を守るにはどのようにしたらよいかについても考えました。

横に、抱えたり、だまってわきに持ったり、力を抜く動作が重要なことを学びました。

また、服を着て泳ぐと、とても重くなって下に引かれるような感覚になることも知りました。

5、6年生は、服を使って、空気をできるだけたくさん取り込んで浮く方法にも挑戦しました。

濡れた服を脱ぐのも、体にくっついて大変な事がわかりました。いざという時のために、知って備えておく命を守ることのひとつである学習を行いました。

ペットボトルで浮きま～す



空気をたっぷり入れて

ピアエデュケーション

19日(水)に、二戸高等看護学校の学生さん方17名が授業の一つとしていらっしまいました。将来看護の仕事に就いたときに、様々な世代の人と交流していくことが不可欠になります。まずは、自分と一番近い世代の人と交流することで、コミュニケーションを通して、その世代の人に慣れていくということで、御返地小で3年～6年生に授業を行いました。テーマは「命の尊さ」と「思いやり」でした。

初めにミニゲーム「指キャッチゲーム」「言う事一緒、やること逆」を一緒に行い、少し緊張がほぐれたところで、事前に考えて記入していた、「命って何だろう」「生きてると実感するのはどのような時」ということについて、グループで交流しました。

そして、聴診器で自分や友達の心臓の音を聴き合い命の音を実感しました。生まれてくる確率は1200兆分の1だということを知り、驚きました。

自分の名前の由来や、生まれてくる時のエピソードを読んで、自分の命は尊いものだということを考えました。

普段、私たちができることは、困っている人がいたら、一緒に手助けしていくことだということも改めて教えていただきました。

看護学生のみなさん



ドクターしている～



命を守る学習～防犯教室～

24日(月)に全校のみんなで防犯について学びました。

二戸警察所生活安全課の方、駅前交番の方にきていただいて、命を守る学習をしました。

- ①防犯ブザーをきちんと確認し、いざという時に備えること。(電池の確認もしておく)
- ②まわりのことに「気づく力」をもつこと。(異変がわかり、大事な情報につながる)
- ③人との距離を保つことの大切さ

これらが、命を守る防犯につながることを教えていただきました。

ランドセルをつかまれたら、どのようにすれば逃げることができるのかなど、具体的に、学習しました。

